

～2022年度の京都府地域交響プロジェクトの助成金を活用して行った、支援者向き講座①～

【宇治で学ぼう・語ろう・つながろう コロナ禍での赤ちゃんの育ちについて、みんなで課題を

出し合い、掘り下げていきましょう 6月18日～19日 講師：大貫崇さん、古野陽一さん】



参加者の一人一人がいろいろな経験をお持ちです。聞いただけでなく、ぜひ自分の経験や思いも語って下さい。



コロナ禍での赤ちゃんの育ちについて、みんなで課題を出し合い、掘り下げていきましょう

場所：宇治市広野町西裏100 平和堂100BAN店2階
対象：赤ちゃんや子どもの育ち・子育て中の親の応援、サポート、支援に関わっている方（学生可）
参加費：全日参加10000円（1日のみ5000円）会場にてお支払いください。
定員：各日40名（先着順・要申込）
申込：フォームからお申し込みください。

見るコーナー
*当日展示するものの一部です。フリータイムの時は説明もいたします。

赤ちゃんや子どもの育ちなどに關わる資料（※来り子）



誰がわかるまでに使うスリングなど
（子育てを楽しむ・送きよみ）



テキスト、ポスター、かるた、動画）を作成する際、参考にした書籍・資料



主催：子育ての文化研究所 令和4年度京都府地域交響プロジェクト交付金 申請中

学び、語る スケジュール

1日目 6月18日（土）
講師 大貫 崇さん

赤ちゃんは生まれたその時から呼吸をします。大人でも1日に15000回から20000回呼吸をしていますが、赤ちゃんはもっとたくさん呼吸を呼吸しています。そして、たくさん呼吸しています。1日目は赤ちゃんの「呼吸」と「嚔り」について、みんなで掘り下げていく一日を目指します。

9:45 受付・自由見学
10:05 開会挨拶
10:15 講座
12:30 昼食休憩
13:45 グループミーティング1（講座を受けて）
14:30 お話（ふとんのえびやさん）
15:15 おやつタイムと自由見学
15:30 グループミーティング2（今日の学び）
16:00 フリータイム
（交流したり、見るコーナーをお楽しみください）
17:00 終了

2日目 6月19日（日）
講師 古野 陽一さん

コロナ禍の中で、直接会って伝えられない情報がいろいろな場面で増えました。赤ちゃんを産み育てる方へのサポートもインターネットを通じた情報を外しては考えられません。今回の起こっているの？ 子育てで「フットワーク」？ 金もない時間に出る事は何？ということをもみんなで考えていきましょう。

9:45 受付・自由見学
10:05 開会挨拶
10:15 講座
12:30 昼食休憩
13:45 グループミーティング1（講座を受けて）
14:30 お話（アトリエマザーさん）
15:15 おやつタイムと自由見学
15:30 グループミーティング2（今日の学び）
16:00 フリータイム
（交流したり、見るコーナーをお楽しみください）
17:00 終了

大貫 崇さん
呼吸コンサルタント、アスレティックトレーナー1級
京都府立宇治高等学校卒業。1999年に産業、タマシイ
大学短期大学システム・コミュニケーション学専攻を卒業。
2006年にフリスティック大学大学院で応用動物生理
学の修士号を取得。2016年に呼吸CDを立ち上げ現
在は呼吸に關した企業研修や商品開発などを法人向け
呼吸コンサルティング業務を執行。
＜代表書籍＞「赤ちゃんの呼吸機能はキチンと動けば、
ムダなく動けるからに変わる。」（東洋出版）
＜呼吸しなさい！呼吸の大切さ＞呼吸専門サロン「ダ
リダリ」よりよりオープン
公式 Instagram: @breathpleasekyoto
公式 Website: https://www.breathplease.jp

古野 陽一さん
株式会社産業学舎 代表取締役、はじめてのあいの代
表、NPO法人子どもとメディア事務局、一般社団
法人ジェイファーマーズ、福岡県北九州在住の産
一男子（2歳児）産生のころは仕事と子育て両方
をマイノリティーに悩んでいたこともありますが、第二子
（2歳児）産生のころから子ども・子育てのさま
ざまな取り組みがあり、第二子（1歳児）産産をキ
っかけに、乳母子のグループプログラム（IPO）に関
を関した。他にも子ども、子育てに關わる人になら
れた講座、講座、ワークショップを行っている。

ゲスト 小坂 道代さん
アトリエ Mother 作家デザイナー
1989年生。母親のわがやうに育てたい赤ちゃん人形
製作を皮切りに2007年からは、希少な動物人形
3ヶ月、6ヶ月年齢で即席製作。2012年、園
内で制作の赤ちゃん人形展覧会を開催。動物園スタッフ
製作、各種学校、病院、児童会、子育てマニッ
や介護職などのご依頼に応えお祭りイベントにあ
る教材や、贈り物の制作活動に活躍。
公式 Website: http://www.ateliermother.com/
*子ども暮らし・暮らしの生活の人間を学んでおられる方
です。

平和堂100BAN店
●近鉄京都駅より徒歩17分 近鉄大久保駅下車徒歩3分
●JR京都駅より「京福快速」で25分（または普通快速線）
●JR新田駅下車徒歩3分
【ご注意】「あやこ房快速」はJR新田に停車しません。
（駐車場について）
・市営の臨時駐車場は西側と東側にあります。（お荷物で90分無料）
・その他近隣コインパーキングあります。
【子育ての文化研究所】
〒611-0031 京都府宇治市広野町寺山445-5
連絡先 info@kosodate-bunka.jp
代表 米まじ子 / 事務局 湯きよみ
http://www.kosodate-bunka.jp/



アクセス

毎年宇治で開催をしていた子育て支援者の合宿が中止になって3年目。宿泊や食事を共には出来ないけれど、人数制限をし、広い部屋で話を聞くのであれば可能なのではないかと。あまりにも出会いが減ると、学びに対する興味も減る。そうならないように、今回の2日間講座を企画しました。

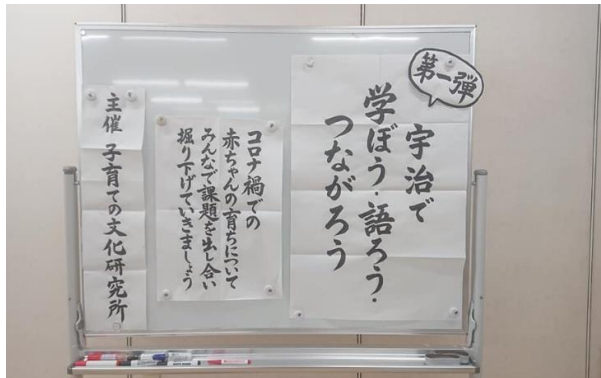
会場は、宇治市大久保の平和堂2階にある、NPO法人子育てを楽しむ会の「つどいのひろばりぼん」、和室、等を使用し、受付時に人数制限などをし、密にならないようにしました。

1日目は、開会挨拶に続き、呼吸についての話を大貫崇さん（ゲストは助産師の吉田敦子さん）。昼食休憩を挟み、ミーティング。その後、京丹後市で布団屋を営む蒲田英正さんから赤ちゃんとお布団の話、その後、実際二綿を入れる作業を見せて頂いた。最後に予定を変更し、午前のゲストであった吉田敦子さんから赤ちゃんの抱っこの仕方の実技指導をして頂き、1日目終了。

2日目は、古野陽一さんの携帯電話と子どもについての話（ゲストは子育て支援者の横地景子さん）。昼食休憩後は、午前の振り返りのグループミーティングのあとは、アトリエマザーの小坂道代さんのお話と実際の人形の説明、おやつタイムのあとは、松田妙子さんから、行政の動いている方向などのお話を聞き、2日間の日程を終了しました。

両日、別室①では、赤ちゃんや子育てに関わる資料、テキスト製作時に参考にした書籍を展示し、別室

②では、首がすわるまでに使うスリングなどを実際に体験できるコーナーを用意し、休憩時間などに見て頂くことが出来ました。この全体の様子は、講師毎に動画を撮影していますので、ご覧ください。



大貫崇さんの講義。



ふとんについて 蒲田さんの実技



抱っこの仕方 吉田さんに教わる受講生



古野さんの講座



アトリエマザーさんの人形の説明



松田妙子さんの話



スリングなどの体験



人形などの展示（日本のもの、海外のもの）



資料の本、女性の一生等の双六

※動画で、各講座の報告しておりますので、そちらでご確認頂ければ幸いです。

【参加された方からの声】（多くのなかからの一部です）

Q: 参加して学んだことは？

A: 大貫先生のお話は、前回の復習・確認が出来てよかったです。先生に、前回講座以降続けていることも報告出来ました。お布団屋さんのお話は、母が布団を作り、手伝っていたことも思い出しながらお聞き出来ました。また昔の方法に、新しい手法を取り入れていく伝統工芸の世界を感じました。

古野さんのお話は、知らなかったことでした。小坂さんのお話は、相手がより解りやすいように工夫されてナルホドです。

A: on-line でビデオオフにしている方が多い時は、あまり気持ちのいいものじゃないなあと思っているのですが、古野さんの、あえて声だけでの交流だからこそできること、という視点がとても新鮮でした。支援は、支援される方の立場に立つと伊野は基本ですが、それなのに、ビデオオフを嫌っていた自分にハッとしました。

「母子モ」の規約問題。ちゃんと規約を読むことの大切さをいまさらながら。文字が小さいと読めなくて、とか言ってる場合じゃなかったです。

えびすやさんとアトリエマザーさんのモノづくりに真摯に向き合うからこそ出来る逸品。目の前の自分ができることしたいことを、しっかりやり続けていくことの大切さを学ばせていただきました。

A: (6/19のみ参加) 午前の部では、現代の子育てに奮闘している保護者の多くは、コロナ禍ということもあり、地域の方などの周りとの繋がりが少なくなっている事実がある。そのこともあり、子育て情報の多くはSNSから学んでいる。コロナ禍で直接の会える機会がないからこそ、声だけで繋がることのできるアプリがあるということなどを学びました。

午後の部では小坂さんのお人形への想いやお人形を取り入れている施設での使い方などを学びました。また、助産師の吉田さんから赤ちゃんの正しい抱っこの仕方について実際にお人形を使って、体験しながら学ぶことができました。

A: 姿勢で呼吸の仕方が違ってくこと、突っ張ってのけぞる抱っこの子は呼吸が浅い→睡眠が浅い→便秘症が多いとの話を聞き、何人かの子どもの顔が浮かんできました。そして習慣付くとなかなか変えられない事も。。。ひとつの習慣がいろいろな身体の状態につながっていくことが一番頭に残りました。自分は専門家につなぐ役割ではあるけれど、もっと妊婦さんや子どもの身体の事を知らなければと感じました。

Q: 語ったことは？

A: 古野さんのお手伝いをさせていただきました。

産前産後支援の声だけ一步で感じたこと、それを柳川で始めたことを話しました。

特に、産直後に信頼できる人たちと繋がるのが、お産の体験の共有、産後の身体のケア、赤ちゃんへの関わり方などリアルに話すことで、肯定的に今を受け入れることができる。その後、家庭で暮らす中で、赤ちゃんの様子をみんなで喜び、ママを労い、ママの不安と一緒に共有することの大切さを話しました。そして、ママも赤ちゃんも実際に外に出て、触れ合う事ができるように促し、そんな場を作ることも大切だと話しました。言葉足らずでしたが、話せて良かったです。

A: コロナ禍になってからの子育ての大変さについて、それぞれの現場で見聞きした実際を報告し合った。また、声だけオンラインひろば「声だけ IPPO」の実践報告を聞いて、なるほどと思う点やファシリテーターの力量や支援者教育についてどのように進めていくのかなど。指導にならないような配慮について、日頃の支援の中でも同じようなことが求められる点。参加者を募るのが厳しいだろうなということ。

A: 子育て育ちの現状を語り合いました。10年、20年前の赤ちゃんだった子どもたちが、今、小中高大学生になっていて、その子どもたちの赤ちゃんだった頃の育ちも今に繋がっているのではと感じることが多いです。それぞれの分野の方の話をお聞きしながら今、何が必要なのか、どのように伝えて言ったらよいか、答えは一つとは限らないけれど、自分にできることを丁寧に尽くしていきたいことをお話していました。

Q: つながったことは？

A: ○○さんに、古民家の子育て広場に見学に行きたいとお願いしてOKしていただきました。早速FBで7月の開催日をあげてくださったのですが、我が家に坊さんが来る日で諦めた。でも絶対行くぞ！

A: 助産師さんやいろんな事業をやられている方と繋がれました。

A: 今回の交流から保育士だけでなくふれあい広場で支援される方々や看護師の方など職種の違う方とつながれたと思います。

A: 舞鶴の支援者さんとお話することができました。今海上自衛隊の官舎の下で出張ひろばを開いています。引っ越しも多いワンオペ育児の大変さを目のあたりにし、支援者同士の繋がりで何か役にたてないかなと思いお話ししました。組織同士でつながれば簡単ですが、支援者が想いを共有してつながれば、もったいなく細かい対応ができるのではと思います。親子の情報交換したり、リモートを使って引っ越し先の様子を知る機会をもったりと、少しでも不安解消のお手伝いができるよう、ゆるゆる繋がりたいと思います。

A: 呉の子育てひろばの○○さんが声をかけてくれました。舞鶴も呉も自衛隊の家族が多く、転勤されるときに、行先の子育てひろばとオンラインで事前につながっておけば、引っ越し後もスムーズに地域につながるのでは、というアイデアを聞かせてもらいました。

Q: 展示物の感想は？

A: 古い絵や資料、写真、手紙、玩具など直接目にすることができとても新鮮だった。そして沢山手元に保存されていることに驚かされました。もっと時間に余裕があれば解説を聞きながら照らし合わせて見物してみたかった。

A: 素晴らしい！ 子育てについての、これだけの資料は珍しいと思います。絵や写真、本、人形を見ることで、時代を超えて子育てをしてきた人たちがいるのを感じました。いつの時代も子育てを大切に

てきたのがわかりました。逆に、今は、子育ての本質を見失っているのかもしれませんが。子育ては時間と手間暇がいるのですよね。

A: 展示してあった浮世絵から、江戸時代は、授乳はあたりまえのことで、おおらかに表現されているのがわかる。赤ちゃんの人形からも、はいはいしている姿のものがあったりして、物が少なかったとしても、子どもをよく見て大切にしていた姿勢がうかがえるように思った。

Q: 今回の参加で、現場で役に立ったり、具体的な行動に繋がったことがありましたら、教えてください。

A: 地元に戻り、障がいを持つ中学生に呼吸の仕方を伝授してみましたが、にわかレクチャーでうまく伝わりませんでした。でも会話の中から、「お医者さんに呼吸が浅いと言われた。」など疲れやすい原因になっていることなどを教えてもらい、呼吸の大切さを改めて感じました。身体のこわばりもありリラックスができていない様子です。「自律神経を整えよう！」と時々頭をもんだりしながらゆっくり呼吸をするようにしています。

母子モについては、すぐに担当課に連絡をしました。問い合わせはしてくださったようですが「ライン問題と同じ。すぐに解決できることではない。」との返事でした。既に導入しているので対応は難しいとは思いますがもんもんとしています。お母さん達が母子モに限らず、携帯の使用にはリスクが伴う事を知る機会を作ればいいのか、と思いつつ、何もできていません。とりあえず母子モのPRはやめました。

A: 産前産後のケアに関して、わたしたちの団体にできることは何か、をスタッフの会議で検討している。

A: 母子モ規約の問題点を、地元の助産師会に持ち帰りました。大貫さんの呼吸レッスンは、自分の仕事にとっても役立っているので、たくさんの方に受けていただきたいなあと思います。声だけ参加のオンライン相談を始めてみたいなあと思っています。

A 赤ちゃんの正しい抱っこの仕方を翌日から実際に現場で行っています。手首の疲れもなく驚きました。一緒に現場で働いている方々に抱っこの仕方を共有すると「確かに手も楽やし抱きやすい」と言っておられました。学んだことをすぐに実践できたので、身体もすぐに慣れました。改めて貴重な研修に参加することができてよかったと感じます。まだまだ若手ですが、吸収したことをこれからも保育に活かしていきたいです。本当にありがとうございました！:

A: 実際に会ってコミュニケーションを取ることの大切さを感じ、保護者の方々と送り迎えの際に少しでも会話できるよう意識しています。些細なことでも会話できる関係づくりができるようになりたいと思っています。

A: 早速体験させていただいた抱っこひも、抱っこ布団を保育で実践した。

最近暑いのか直ぐに起きてぐっすり寝てくれない。とのご相談に対して、汗を吸わないから蒸れて目を覚ます可能性があること、肌の延長線上に布団があることをお話した。

A: 勤め先で話す機会があったので昼寝の事・母子モなどを話しました。

普段の保育の中では、発育発達の問題視より保育園の保育は、行事重視だなど思われました。話せて行ける方に少しずつ話していきたいと思っています。

A: 息を吐く時間を長くするとリラックスすることを体感しましたが、緊張の強い親や子にどうやって伝えたらいいんだろう、と考えながら帰りました。ひろばで寝不足のお母さんが横になる間、お子さんを抱っこさせてもらう機会があり、甲高い声で泣き叫ぶ子とぴったり胸を合わせながら、私が吐く時間を長くすることを意識すると、だんだん子の呼吸がゆっくりになり、眠りました。呼吸は連動することを体感しました。